

平成 29 年 7 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム 平成 29 年度第 6 回

学びの段階

中齋塾フォーラムが発足して、おかげさまで 10 年経ちました。この 10 年間は「知識を広げましょう」「知らない事が世の中に多過ぎるので、色々なことを知るようにしましょう」と申し上げてきました。今日は、知識を増やしたらその次の段階、これから中齋塾フォーラムがどういう方向へ進んでゆくのか、という話を致します。

先ほどの川村代表の挨拶や司会者の塚越参与の話を聞きますと、皆さんの向かっている所は同じであると感じました。だいたい皆さんの意識が集中してきています。それは、人生をより充実させて人さまのためになることをしよう、結果として自分も幸せになっていく・・・そういう考え方で進んでおられると実感しました。

塚越参与が「もう一度感動したい、という気持ちで学びを続けている」と言われましたが、一度と言わず二度、三度と感動して戴く、できれば毎月何か感動するものを見つけられるとよろしいと思います。ご存知のように渋沢栄一さんは、息子さん曰く「父は、仕事を作り出しては追いかける人生でした」と、感動するものをせっせと見つけていく人生を歩みました。

昨日お会いした群馬郷学会の前事務局長の 82 歳の女性も、非常にエネルギッシュに動き回っておられます。当然、認知症も寄りつかない、認知症を跳ね返してしまうような生活をされています。そういう人生の過ごし方についても中齋塾フォーラムでお話していこうと思っています。

第一段階・・・知識

冒頭申しましたように、今迄の 10 年間は知識を増やすことに重点を置いて、知識の増やし方を色々とお話してきました。これは学びの第一段階です。

以前から、物事を考える時は縦軸と横軸で考えると申し上げています。縦軸は国の歴史・哲学といった背骨となるもの。

横軸は知識です。知識は横に広がります。例えば「知識」という漢字を考えると、なぜ「ちしき」と読むのか？ 意味は何か？ 中国語では何と読むのか？ 等々、知りたい事がど

んどん増えていく。そうすると知識が広がります。知識を広げていくと、気がついた時には辞書代わりにする友人が出来ます。私の場合、どうしても分からない漢字があると二松学舎大学の図書館に勤めている友人に連絡をして調べて貰います。すると、この文字はいつ頃成立して、どんな学者がどういう解釈を加えている、といった専門的な答えが返ってきます。解決に困るような仕事上のトラブルや、金銭的な問題が生じた時には、知り合いの弁護士や税理士の方に聞きますし、病気や身体の不調があれば専門のお医者さんに相談します。人間関係をどんどん広げていくと、教えてくれる人が沢山出てきます。

ですから知識を増やす段階は、自分個人の限界が分かり、結果として教えてくれる人を増やすことになります。自分一人の知識だけでなく、色々な人の知識をわが物にしながら知識が増えていきます。

次に、知識が増えてくるとどうしても行動したくなります。例えば、漢字を調べるのに諸橋轍次先生や白川静先生、加藤常賢先生の辞書を見ていると、どうしても先生方の警咳に触れたいくなります。先生がどういう所で生まれ、どのように勉強したのか、それが知りたくて故郷を訪れたり記念館に行ったりします。何度もお話していますが、私は西郷隆盛が沖永良部島で言志四録とじっくり対峙して「言志抄録」を作ったという話を聞いて、西郷隆盛がどんな獄中生活を送ったのか、痩せ細った姿の西郷隆盛像を見たい、そう思っただけで沖永良部島に出かけました。

眼や耳から入って来る知識、人の話を聞いたり本を読んで入って来る知識・・・知識がどんどん増えていくと行動したくなる。行動すると体験が増えます。体験することによって知識が身体にしみ込む。知識と体験が融合すると、第二段階に入ります。

第二段階・・・判断

知識と体験が融合し、爆発して自分自身の心の中に判断基準がしっかり入る、判断基準が身に付いた段階が第二段階です。学ぶということに関して、なぜ学ぶのかが分かって来ますから、その先その先へと進むことになります。ポイントは物事の根っこは何か掘り下げることです。そういう習慣が身につくと判断基準が見えて来ます。

今、政府は税金を上げる手立てを一所懸命考えています。国が苦しくなった時は税金を減らせば良い、これは歴史を見ても明白です。政府も官僚も全て、今は日本の国を悪くする方向でしか動いていないと私は確信しています。税金は国を成長発展させる根幹ですが、国の重要ポストにいる人たちは、その根幹が見えていない。何故なら、彼らは本で読んだ知識だけで体験がないから、目先のものしか見えていないのです。

知識に体験が加わると、それが融合して素晴らしいアイデアが生まれてきます。ノーベル賞を受賞した人達に共通していることは、一所懸命自分が研究していたものとは違う環境、例えば散歩をしている時や食事をしている最中にふっと閃いています。それが知識と体験が融合して爆発した状況です。判断基準を身に付けた段階に入っているからだとは思っています。

皆さんの会社は手形を貰うことがありますか？ 手形を貰うということは、不渡りの危険性があるわけです。それが大きな額であれば会社が潰れます。ですから手形を貰わなければ良いのです。これは根幹の部分です。商売をしていると、どうしても小切手や手形をやり取りすることが当たり前になります。しかし、小切手や手形を出さない・貰わない、そう決めて経営している会社は沢山あります。それは判断基準を身に付けているからということになります。

中斎塾フォーラムは知識を広げる第一段階を終えて、判断基準を確立する第二段階に入りました。知識の段階は、一所懸命話を聞けば何となく理屈で分かります。理屈で分かったら、次は体験をして下さい。体験の裏打ちがなければ、判断基準を持つには至りません。大多数の人は第一段階で一生を終えます。我々は第二段階へ入りましょう。

これから私の講話では知識に関する解説はあまり致しません。皆さんは、話を聞いて分からないことがあれば調べて下さい。自分で調べれば覚えます。調べても分からないことがあったら代表幹事や前代表幹事、理事長に聞いて下さい。

判断基準を確立した人とは、世の中で言う指導者、リーダーです。「温故知新師」の師にあたる人です。世の中のリーダーたるべき者は判断基準を確立しなければいけないし、身をきちんと清潔に全うしなければいけません。そういう観点で見ると、日本の国のリーダーである安倍首相、アメリカはトランプ大統領、他の国でも新しい指導者が出て来ますが、その人達は果たして判断基準を確立しているのでしょうか？ 彼らは判断基準を持っておられると思いますが、自らを正すという能力においては完全に不適格者だと感じます。

安倍さんは森友学園問題で自分や奥さんが関与していたなら辞任すると公言していましたが、なぜ辞めないのでしょうか。口先だけで誤魔化しているから雪隠詰めにあって、予算委員会に出て来ざるを得ない状況になったわけです。何のことはない、嘘をついているからです。中斎塾フォーラムでは判断基準として、これだけ守ればおかしな人生にはならないと申し上げている言葉があります。「嘘はつかない」「約束を守る」、もう一つ加え

ると「訳の分からない金に手を出さない」です。「嘘はつかない」・「約束を守る」、これだけ実践していれば素晴らしい人生が送れます。

トランプさんがやっていることはトランプファーストです。自分のところだけ良ければいいのであって、アメリカ国民のためというのは口先だけだと思います。小池都知事は都民ファーストならぬ小池ファーストでしょう。小池さんは自分自身のために進めているのであって、世のため・人のためという動きは少しである、そう私は判断しています。

ということで、判断基準が確立していれば、人さまから頼られた時、「これはこうだ。こうすれば良い」と的確なアドバイスが出来ますし、意見を求められた時は自分なりに説明解説が出来ます。

皆さんも判断基準を確立する所まで自分が到達したと思ったなら、その判断基準で世の中を見て下さい。安倍さんのやり方はどうか？ トランプさんは？ 次の防衛大臣は誰になるか？・・・等々、自分自身が閻魔様になったつもりで世の中を見ていると、それなりの評論が出てくると思っています。

第三段階・・・使命

学びを掘り下げる話をしています。第一段階は知識を増やして体験を積む。それらが融合すると第二段階、判断基準を確立し世の中のため・人さまのためになることを始めていく。世のため人のためになることをどんどん進めていくことが人間の生きる目的かと、人生の意味を悟る所へ向かいます。私は何のためにこの世に生まれて来たのか、人生をかけて何をすべきか、次の世に託すものは何か・・・自分の使命感を悟る。それが第三段階です。

第三段階になると、もう哲学の部分です。これを分かりやすく説明しているのが「十牛図」です。禅宗の教えで、悟りに至る修行の課程を十段階に分けて、牧童が牛を飼い馴らすまでになぞらえた絵と詩（うた）で説明しています。「十牛図」の人間最高の境地が「入麴垂手（にってんすいしゅ）」です。中村天風先生の書かれた『盛大な人生』は、十牛図を分かりやすく解釈しています。

第四段階・・・感化 第五段階・・・遊

第四段階は感化です。エネルギーがもの凄く生まれてくる段階だと思います。世のため人のためという考え方が根底にあって、その考え方自体を忘れてしまっている段階。中島敦の『名人伝』は、これが非常に分かりやすく書かれていると思います。

そして最後の第五段階は、遊です。

私は今、第三段階の<使命感はこれだ！>というところまで自分なりに納得しています。ですからここまでは皆さんにお話できます。第四、第五段階には至っておりませんので未だ話が出来ません。頭の中で理屈としては分かるので、自分の体験としてお話しすることは出来ません。

中斎塾フォーラムは10年経って掘り下げの段階、判断基準を身に付ける段階に入りました。ですからフォーラムの最後の時間、5分でも10分間でもディスカッションや質疑応答が出来ればよいと思っています。講話以外のことも構いません。木内信胤先生は「何でも聞いてごらん。何でも答えるから」と言っておられました。「分からないことを分からないと答えることは、一つの悟りなのだ」とも言っておられました。ですから私も分かることは答えますし、分からないことは答えません。分からないことを分かったように答えるのは一知半解ですから。分からないことは調べればよい。追い求めれば、それなりに答えが出てくるとと思っています。

心の掃除をして眠る

では恒例の質問に参ります。もう今年も半分終わりました。

○ 半年間、嘘をつくことが少なかった方

嘘はつかないことです。仕事をしていると、どうしてもリップサービスをしたり、ちょっと口をすべらせて嘘をついてしまうことがあると思いますが、大概あとで後悔します。

○ 半年間、良い日が続いた方

良い日が続いたかどうかは、夜寝る時がポイントです。中村天風の本『成功の実現』に、こう書かれています。

「夜の寝際くらいは、綺麗な気持ちにおんなさい」

「寝つくまでは、あと限り積極的な状態を堅持せよ」

昼間、何か悪い事をしたとか、嫌な事があつたとしても、寝る前には心の掃除をする。心の中のゴミをとって、さっぱりした清らかな気持ちになってスッと眠る。尚且つ、積極的な気持ちで<出来て良かった>とイメージして寝たなら、きっと実現していきます。

○ 半年間、有難うと言われることが多かった方

年配になればなるほど、有難うと言われることが少なくなります。この中で一番ご年配の方がスッと手を挙げられましたので、凄いと思いました。

○ 半年間、健康法を実践しておられる方

○ 昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

先ほど申しました。言い方を変えて質問致します。

○ 夜寝る時に、一日を振り返って心の中の掃除をした方

何人か手が挙がりました。心の掃除ができるとよろしいですね。

○ 半年間、自分磨きをよくやっていると思う方

自分で自分を磨こうと思わないと自分磨きにはなりません。是非これも実践して下さいようようお願い致します。

「知足」を掘り下げると・・・

中斎塾フォーラムの基本哲学は「足るを知る」、ほどほどで満足しましょうということです。この中には、「嘘をつかない」「約束を守る」「世のため人のため」も入っています。

本日ご紹介する本は、先程申しました中村天風先生の『成功の実現』（日本経営合理化協会）です。

天風先生のお爺さんは柳川藩主立花家 15 代当主で初代伯爵の立花鑑徳です。夕食の時には腰元が 3 人もかしずいて晩酌をして、小さな天風先生を呼んでは、「もっと近うまいれ。好めるものを食せ。眼をすえて、よくこの傷を見い」と額の向こう傷を見せて、「男が戦う時は腕じゃないぞ、度胸（しいだま）だぞ」と教えたそうです。天風先生は子供でしたから、とにかく好きなものを食べるだけでいいんだと思っていた。それが後年、満洲に渡って初めて命のやり取りをする時に、頭が真っ白になりながら咄嗟に「いざという時は度胸だぞ」という言葉が浮かび、瞬間身体が動いて斬り込んでいった。天風先生 16 歳の時です。それ以来、数知れず命のやり取りをしたわけです。

人間は知識だけでは動きませんし、体験だけでも動かない。知識と体験が合わさって、行動に移り、その行動が習慣化して自分の身体にしみ込んでいる状況、そこまで知識と体験を深めていかないと、第二段階の「判断」の域に入っていません。判断基準を確立している人は、何か危険が生じた時、とんでもない状況に陥った時、自然と身体が動きます。

今後は、中村天風先生の話をしつづつ増やしていくつもりです。知識を増やすには安岡正篤先生、行動の大事さは中村天風先生に照準を当てて参ります。そこで、基本哲学の「知足」は、ベースとして天風先生の話をしていこうと思っています。

先日、或る出版社の編集長に会いました。その時は、木内顧問も大野参与もご一緒しておられました。その方は団塊ジュニアだそうですが、「皆さん、そのお歳でエネルギーがあり余っておられるのは何故ですか」と聞かれたので、「簡単なことです。世のため人の

ために動くことです」と答えました。自分が稼ぎたい、自分だけいい思いをしたいと思っている時はエネルギーは少ししか出ません。世の中のため、人さまのために何かしたいと思ったらエネルギーは無尽蔵に湧いてきます。それは自分がそう信じているから、そう思っていなければ動けません。ですから、「世のため人のため」と口先だけで言ってもよいのです。それがだんだん沁み込んで、何かの拍子に反射的に出ます。それが第三段階の使命感に繋がってきます。

基本哲学の「知足」をどんどん掘り下げていくと、自分のエネルギーはどこから生まれるか、どうやってエネルギーをコントロールするか、という段階に入ります。自分自身のエネルギーをコントロールできるようになったら、他の方にエネルギーを差し上げるにはどうしたらよいかということへ繋がってきます。それがそのまま、天風先生の言われた「十牛図」の最後の「入廬垂手」に繋がって来ると思っています。

ちなみに天風先生が理想とした「入廬垂手」とは、例えば、種々雑多な人間が集まっている居酒屋にみずぼらしい格好の人物が入って行く。その人物は何も言わずにニコニコしているだけなのに、何となく喧騒がおさまって皆の心が穏やかになってくる。その人の存在によって周りの人が感化され、心が浄化される。この段階はまだまだ私も分かりませんが、我々が目指しているのはこういう方向です。

論語を読む―判断基準の確立に直結する

では、論語の解説をさらっと致します。本日は衛霊公篇 18～21 です。

【十八】子曰く、君子は能くすること無きを病う。人の己を知らざるを病えず。

孔子が言うには、よく出来た人物は自分の学びが深くならないことを思い悩むものだ。人が自分を認めないことなど、まるで気にしない。

【十九】子曰く、君子は世を没えて名の称せられざることを疾む。

孔子が言うには、君子とは亡くなってから評価が定まるものだ。本当に実力がついていれば、世に出る機会はめぐって来る。世の中に自分の名が称えられないのは、自分に努力が足りなかったからだ。

論語に「後生畏るべし。・・・四五十にして聞こゆること無きは、斯れ亦 畏るるに足らざるのみ」とあります。自分より一回りくらい若い世代で、自分の持っている知識や能

力をはるかに超える人間が出て来る。そういう人物を「畏友」と言います。

ここは、自分が亡くなった後、「あの人はたいしたものだ」と言われるような人間になりたいものだ、と解釈をして下さい。自分がどういう人生を終えて、亡くなった後にどういうふうの評して貰いたいのか、お考え戴くとよろしいでしょう。

明治時代の人物は、亡くなった後に称賛された人が結構多いですね。大隈重信や伊藤博文、渋澤栄一の葬儀には、死を悼んで多くの国民が参列しました。逆に、山縣有朋の国葬は軍や政府関係者以外ほとんどいなかったそうです。山縣有朋が国民に嫌われていたという話は前にも致しました。彼にはお金に関する疑惑がいくつかありました。国からの報酬だけで、よくあれだけの別荘をあちこちに作れたものだという声も囁かれたそうです。

安倍さんに限らず、時の総理大臣が亡くなった後、誰がどれだけ悲しむのだろうか、どういうふうに関に伝わるのか、伝わったのか、考えてみるとよろしいでしょう。宇野宗佑さんが総理大臣を辞めた時は、たしか蜂の一刺しで辞任に追いやられたという記憶が残っています。

ちなみに私腹を肥やしている人というとき皆さんは誰を思い浮かべますか？ 何兆円という額で私腹を肥やしている人は、日本人にはいないでしょうね。山縣有朋にしても、べらぼうな富を残してはいません。中国では組織的に私腹を肥やすような仕組みが出来ていすから、おそらく国家主席やそれに連なる人達は実態が分からない位の額でしょう。

もう少し話を広げますと、日本人はその人が亡くなってしまうと、怒りや恨みを水に流してしまう国民性です。中国の場合、怨みが骨髄に達するようなら、墓を暴いて死体を引きずり出したり、跪いた格好の石像を作って叩き壊したりする、そういう国民性です。これは知識の部分で、この論語から国民性の違いも見えます。

しいわ　くんし　こ　おのれ　もと　しょうじん　こ　ひと　もと
【二十】子曰く、君子は諸れを己に求む。小人は諸れを人に求む。

孔子が言うには、大人物はやろうとしたことが出来なかった時、自分自身を反省し更に努力を重ねる。小人は責めを人に押し付けるものだ。

二重国籍問題で民進党の蓮舫さんが叩かれています。蓮舫さんはこの問題を自分の責任としてきちんと解決しようとするのか、それとも他人に責任を負わせるようにするのでしょうか。加計問題でさかんに安倍さんを追及していますが、自分自身の反省についてはどうか・・・この論語と照らし合わせて考えると自動的に評価が出てきます。

【二一】子曰く、君子は しいわ 矜 くんし にして おごそか 争 あらせ わず。 ぐん 群 とう して党せず。

ここから「矜持」という言葉が出ています。

孔子が言うには、君子は見るからに威厳をもって人前に入るから、自然と人は批判もしないし争うこともない。多くの人々と交わるけれども、一つの党派に与することはない。

今回の都議選では、当選したいがために離党したり、迎合して小池さんの所に集まった人が何と多いことかと思えます。そういう人達は皆、「群して党せず」から外れるではないかと感じます。

このように論語を今の自分自身の生きざまに照らし合わせ、日本の国の動き方を照らし合わせてみると、それぞれの評価がすっきり出てきます。尚且つ、それを言葉に書いたりすると、自分自身の判断基準はこれだ！ とはっと気がつく。論語をじっくり読んで戴くと、自分自身の判断基準の確立に直結致します。是非そういう読み方をして下さい。

お時間になりました。本日の講話を終了致します。